

「富岡製糸場と絹産業遺産群」と連携した シルクカントリー桐生の推進について（改訂継続）

世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、富岡製糸場、高山社跡、荒船風穴、田島弥平旧宅から構成され、群馬県の絹産業を紡ぐ一連のストーリー性を持つ登録遺産であります。2014年の登録から5年が経過した現在も、富岡製糸場では国宝「西置繭所」の保存修理が施され多目的ホールとして活用されるなど、構成施設を中心に本県の絹産業の歴史や文化の発信に努められております。

桐生市は構成資産から外れていますが、日本の近代化に大きく貢献し世界に進出した民間の繊維産業都市として官営の富岡と対比される重要な絹文化、絹産業の集積都市であります。

桐生市からの提案によりまして、世界遺産と本市を結ぶ旅行コースも商品化されていますが、引き続き「桐生新町重要伝統的建造物群保存地区」やノコギリ屋根工場などの県内最多を誇る貴重な絹産業遺産を核とする観光誘客のための周遊コースを策定するなど、富岡製糸場と連携した織物の街・桐生を全国に発信するシルクカントリー桐生を推進すると共に、富岡製糸場への来訪者増につながる各種施策の構築を要望いたします。

桐生市からの回答

「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録は、本市の観光振興にとっても最良の機会として捉え取り組んでおります。

本市では、令和2年度4月の機構改革により、産業経済部観光交流課内に日本遺産活用室を新設し、本市にある日本遺産「かかあ天下ーぐんまの絹物語ー」の構成文化財6件の周知や活用について更に積極的な取り組みを進めております。

その取り組みの一環として、今年度は、富岡市に令和2年6月にオープンしました、群馬県立世界遺産センターにおいて、日本遺産「かかあ天下ーぐんまの絹物語ー」の桐生市構成文化財のトピックス展示を9月1日から11月30日まで実施いたします。

また、観光振興など日本遺産を効果的に活用するため、近隣の日本遺産の認定都市である館林市や足利市と連携を図るため、三市の連携について協議を行う第1回目の調整会議を8月に開催いたしました。

今後も、世界遺産とも関連のある貴重な絹遺産を核に、産業観光による誘客などを図ることで地域経済の発展に努めてまいりたいと考えております。

[回答担当] 産業経済部観光交流課日本遺産活用室